

【質疑応答】

司会 込み入った質問は、パネルディスカッションに回そうと思いますので、答えがわかりやすいご質問から、パネリストの先生方にお伺いします。この質問は、外山先生ではないかと思います。プレゼンテーションで言う第3分類のレベル3にあたるのかもしれませんが、まとめたものは最終的にはどうやって処理するのでしょうか。ずっと、とっておくというわけにもいかない気がします。

外山 廃棄のほうは、レベル1・2に関しては管理型の処分場に埋め立て処分です。レベル3に関しては、安定型の処分場で、分別をして埋めて記録をとっておきなさいということです。ただ、現実問題として、いま大量に出ているのが、具体的な行き場所はまだ決まっていなくてないです。

司会 「アスベスト」は、すごく高温で処理すると繊維質が丸くなって、害がなくなると聞いたことがあります。

外山 溶融処理というのが開発されてきていて、できる部分があります。ただ、例えば吹付けのような高純度というか、含有率の高いものが主で、それは溶融して形をなくしてしまうわけです。

司会 肺の細胞に刺さらなくなるということですね。

外山 そうです。形状が発がんに関わるわけですから、形状を繊維状でなくせばアスベストはないということなので。

司会 そのコストは、すごく高つくのでしょうか。フランスでは炉をつくって処理をしていると聞いたことがありますね。

外山 いま実用炉が幾つかできています。そのあたりは環境省の廃棄の部分でだいぶ検討されて実現に近づいてきているということです。

司会 そういうことですか。わかりました。

次は、名取先生にお伺いすることだと思いますが、現実的に、解体現場に行ったりとか、知らないで解体現場の近くを通るとかするわけですが、どのくらいリスクがあるのでしょうか。長くいれば悪いのは当然でしょうが、たかだか1日とか数時間であっても問題になるのでしょうか。

名取 基本的に石綿濃度との関係になってしまうので、石綿濃度と滞在する時間の積による問題になります。石綿肺と石綿の肺がんでは、解体の作業に1年従事した方は石綿肺になり、肺がんのリスクが2倍になると言われます。普通の建設業の方は10年作業すると、石綿肺になり、石綿肺がんのリスクが2倍になると言われます。そういうリスクの差です。

今のデータを1つの目安と考えて、私は1カ月解体作業しましたとすれば、解体1年の方の12分の1のリスクになると大きく推定することになります。3時間解体作業をした場合のリスクは大変低いと思います。わずかのリスクを一生心配する必要があるかは、私はちょっと疑問と思います。それだけを心配しているより、もっと良いことを考えたほう

がいいと思います。

ただ中皮腫について濃度の低い場合でもリスクがないわけではありません。わずか1日しか高濃度曝露していないが発症した報告例もないわけではないので、「ゼロですか？」という質問はすごく困る。「ゼロですか？」言われると、「いやゼロとは言えませんね」としかお答えできません。ほかのリスクと比較しながら考えていただくしかないと思います。

司会 それでは、ここで、会場からの質問へのお答えは終わりとさせていただきます。ここから、パネルディスカッションに移りたいと思います。各先生、向こうにお移りいただければと思います。

(パネラー登壇)